

# JDCP study News Letter

Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective study

No8

June  
2011

## ◆ ご挨拶

平素より JDCP study に多大なご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。

東日本大震災で被災された皆さま方に心からお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を祈念申し上げます。

すでに、震災から 3 カ月がたちました。被災地の皆様におかれましては、計り知れない被害が回復し平穏な生活に戻るまでには、今後も長い期間が必要かと存じます。このような状況の中で、果たして、本研究へのご協力を仰ぐことが許されるのか、慎重に検討を重ねて参りました。

その結果、私たちが進めてきたこの調査研究を今後も長期間にわたって継続させていただき、実臨床の中から得られたエビデンスをよりよい糖尿病治療に還元することも、大切な社会的貢献と考えるに至りました。

被災地の諸先生方や医療従事者の皆さま方におかれましては、様々な理由により、調査の継続が困難な場合もおありかと存じます。折を見て個別にご相談させていただきますので、その節はよろしくお願い申し上げます。

さて、JDCP study は、そもそも日本糖尿病学会を中心に立案された研究ですが、平成 18 年～22 年度まで、厚生労働省科学研究費補助金による研究事業（研究期間の最後の 2 年間は厚労省指定研究）として皆様のご協力のもとに行われてまいりました。この間、お陰様で、わが国における糖尿病患者の合併症の実態を明らかにするための質の高い前向き研究として、研究の緒に就くことが出来ました。平成 23 年度からは、原点に立ち返って日本糖尿病学会が直接主導する、最重要研究のひとつとして継続されることになりました。

このように、研究体制は日本糖尿病学会の強力なサポートのもとに装いを新たに再出発する形になりましたが、研究代表者につきましては、日本糖尿病学会における本研究の推進母体であるデータベース構築委員会委員長である私が、引き続き務めさせていただき、皆様のご協力を仰ぎながら研究を遂行していくことになりました。

各医療施設の諸先生方や医療スタッフの方々が、ご多忙の中、貴重な時間を割いて症例報告書を記入して下さったおかげで、追跡 1 年後は 80%を超える回収率となりました。まだ完全とは言えないものの、精度の高いデータベースを構築しえたことにあらためて感謝いたします。

引き続き、皆様方の絶大なるご支援とご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

JDCP study 研究代表者  
日本糖尿病学会データベース構築委員会委員長  
田嶋尚子

## ◆ よくいただくご質問

---

4年目の症例報告書の記入にあたり、先生方からよくいただくご質問をまとめました。また、これらの内容は、近日中に本研究のホームページに掲載いたします。

**Q：3年目の症例報告書の提出が遅れてしまった場合、4年目の症例報告書は、どのタイミングで諸検査を行えばよいのか？**

A：前年の血液検査から1年後を目安に実施してください。（データセンターから送付いたします症例一覧にはベースラインの血液検査の時点から算出した検査実施時期の目安が記載されていますが、前年の血液検査から1年後を優先してください）

**Q：前年にエンドポイントが起きた場合、症例報告書は送らないでよいのか？**

A：（死亡以外の）エンドポイントが発生した場合も他のエンドポイントを観察しますので、引き続きフォローアップをお願いします。

**Q：患者さんが眼科に行きたがらない場合、症例報告書の返信は行わない方がよいのか？**

A：一部の検査が実施されていなくても構いません。出来る範囲での検査を実施して頂き、症例報告書のご返送をお願いします。

**Q：どの患者さんが登録されているのか、わからなくなりました。**

A：データセンターにご連絡頂ければベースラインの情報などをご連絡します。データセンターでも提供できる個人情報には限りがありますが、わかる範囲の情報をお伝えします。

**Q：医師が転勤した場合、どうすればよいのか？**

A：連絡先変更届に必要な事項を記載して、データセンターへFAXをお願いします。

**Q：患者さんの転院や受診中断の場合、はどうすればよいのか？**

A：転院先がわかっている場合、データセンターに転院先をご連絡ください。転院先での研究継続が可能かなどについて調べます。また、引っ越しする場合には、転居先近辺の研究参加施設をお知らせします。

受診中断については、その後、通院が再開するケースもありますので、研究中止にせずフォローアップして下さい。症例報告書には全く受診がなかった旨を記載頂き、ご返信下さい。

また、以前に中止のご報告を頂いた症例でも、受診再開に伴って中止の取消を行う事が可能です。データセンターに、その旨をご連絡ください。

**Q：3年目の症例報告書をまだ提出していないが、4年目の症例報告書だけの提出でもよいのか？**

A：出来れば、毎年の調査をお願いしておりますが、難しい場合には4年目の症例報告書に、その時までに起きたイベントを記載した上で、ご返信下さい。

Q:  $\alpha\beta$ ブロッカーをつかっている場合や合剤を使っている場合、どのように記載すればよいか?

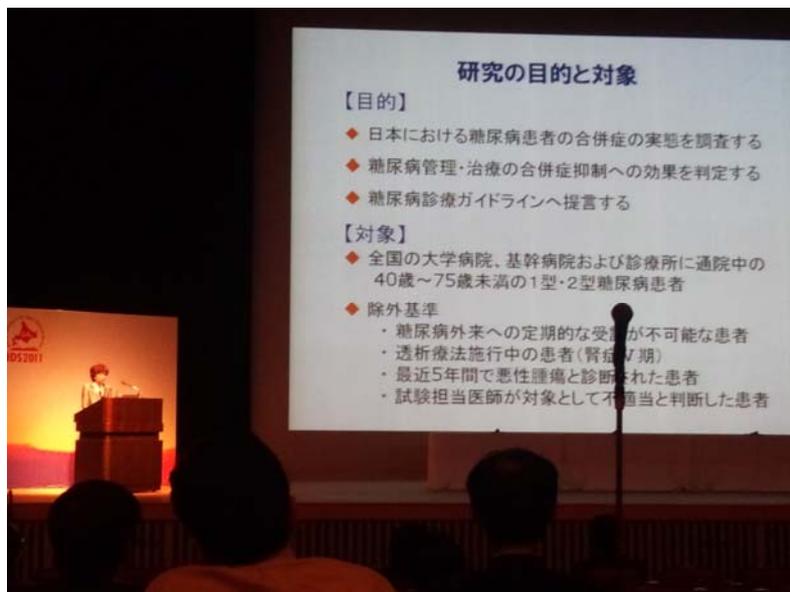
A:  $\alpha\beta$ ブロッカーの場合には、 $\alpha$ ブロッカーと $\beta$ ブロッカーとも印を入れてください。合剤の場合もそれぞれ印をつけてください(例: CCBとARBなど)

## ◆第54回日本糖尿病学会年次学術集会の御報告

第54回日本糖尿病学会年次学術集会が、平成23年5月19~21日に札幌市で開催されました。未曾有の災害の後、はたしてこの学会を開催してよいものか、日本糖尿病学会ならびに第54回年次学術集会 羽田勝計会長による慎重な検討が行われました。その結果、大震災からの復帰を目指した特別シンポジウムを中心に据えた年次集会を開催することが決まり、9,200名をこえる多数の参加者が集う盛大な学会となりました。

5月20日(金)には「J-DOIT1, 2, 3, JDCPからのメッセージ」というシンポジウムが行なわれ、現在進行中である4つの代表的な研究について報告がありました。J-DOIT1, 2, 3という介入研究に加え、全国的規模の観察研究であるJDCP studyの現況について報告する機会を頂けたことは、大変うれしいことでした。

当日、会場には多くの先生方をご参集下さり、活発なディスカッションが行われました。座長をつとめられた門脇孝先生・南條輝志男先生からは、日本でのエビデンス構築における本研究の担う役割の大きさについてのご説明と共に、ご参加頂いている先生・患者さんへのお礼の言葉を頂きました。また、「症例報告書の回収率が90%超えるように」という励ましもいただき、今後なお一層頑張ろうという気持ちになりました。

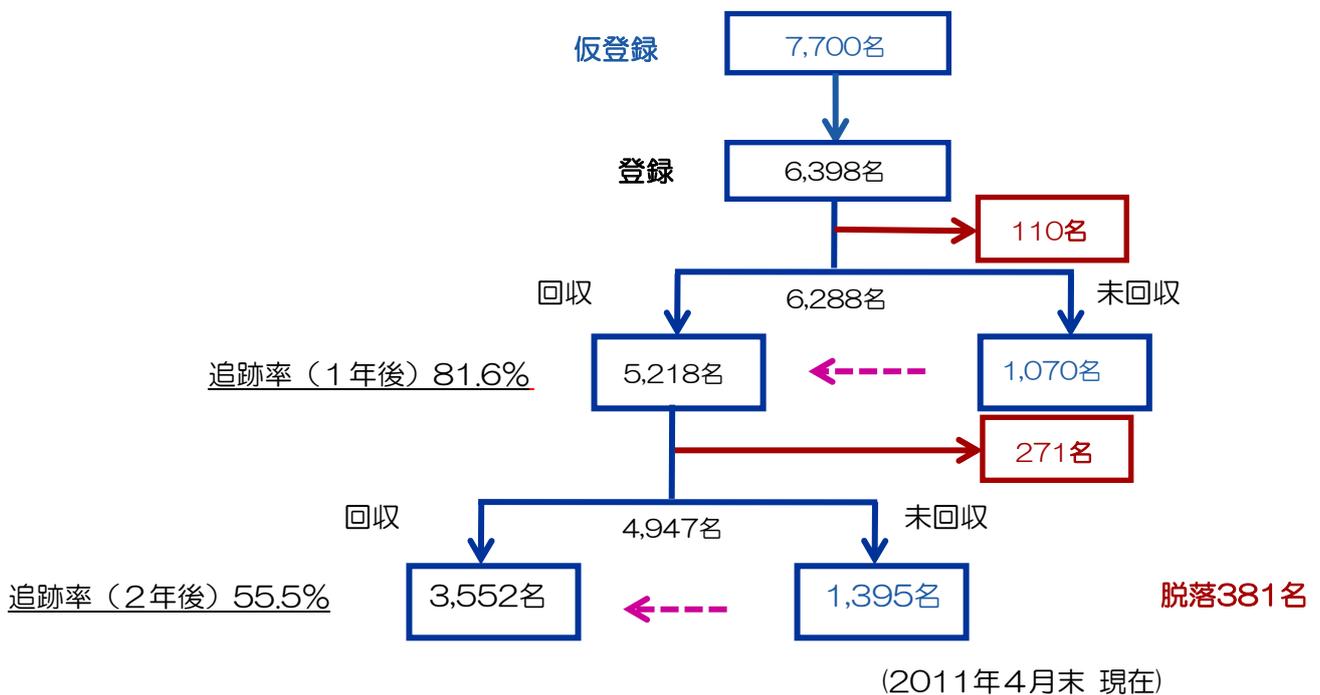


## ◆ 全体の進捗状況について

2011年4月末の時点における、症例報告書回収の進捗状況をご報告申し上げます。

2年目（追跡1年後）の追跡は 5,218症例（81.6%）と、目標の90%以上まであと少しのところまでできました。3年目（追跡2年後）は 3,552症例（55.5%）のご報告を頂きました。諸般の事情により発送が遅れておりました4年目の症例報告書は、順次発送させて頂いております。

今後ともご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



今後とも、未回収症例はもとより、脱落症例につきましても、1例1例、あきらめずに追跡したいと思っております。事務局としてご協力できることは何でもさせていただきますので、ご連絡いただきたく存じます。日常診療のお忙しい中大変恐縮ではございますが、皆様のより一層のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

### ◆事務局

東京慈恵会医科大学 JDCP事務局 事務局長 西村 理明  
〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号  
Tel : 03-3433-1111 内線3689 E-mail : rimei@jikei.ac.jp

### ◆JDCP studyデータセンター

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル  
Tel : 0120-79-1024 (平日9:00~17:30) FAX : 0120-03-1024  
E-mail : hc-jdcp@cmic.co.jp URL : [http://www.jds.or.jp/jdcp\\_study/](http://www.jds.or.jp/jdcp_study/)